

## 2016年度 9月卒業式 総長式辞

皆さん、ご卒業おめでとうございます。早稲田大学を代表して、心よりのお祝いを申し上げます。

併せて、これまで長い間、さまざまな面で卒業生の皆さまを支えてこられたご家族、ご友人の皆様に対し、深甚なる敬意を表します。

2016年度9月の学部卒業式を迎えられたのは、866名の方々に、そのうち、179名の方が世界各地からの留学生です。

これに本日午前中に行われました大学院学位授与式において、修士学位、専門職学位または課程による博士学位を授与された方554名（うち留学生394名）を加えますと、本日をもって早稲田大学を巣立たれる学生・院生の総数は1420名（うち留学生573名。40.4%）の多数に上ります。

これから皆さんは、進学あるいは就職等、それぞれが新しいステージへと進んでいくことになり、大いなる希望に胸を膨らませていることと思います。

しかし、世界を見渡すと、グローバル化や科学技術が急速に進展する一方で、地域間紛争や経済格差、飢えと貧困、大規模な環境破壊など、人類の尊厳さらには人類の存在自体を脅かしかねない地球規模の課題が深刻化しています。

しかし、このような厳しい時代であるからこそ、早稲田大学で学んだ皆さんが、世界各地で、また、さまざまな分野で大いに活躍して欲しいと、切に願っています。

本学の創設者である大隈重信は、明治維新直後の日本がしっかりとした独立国としての地位を確立するためには、憲法の制定と議会の開設、そして自由な学問を通じて自立した精神をもった市民を育成することが不可欠であるという考えに基づいて、明治15年（1882年）に、小野梓らとともに、立憲改進黨を結成し、あわせて本学を設立しました。

政治家としての大隈重信は、内閣総理大臣を2回務めたことで良く知られています

が、同時に、その外交手腕にも定評があり、明治21年（1888年）に、伊藤博文によって、不平等条約改正のために外務大臣に任命されたのをはじめとして、合計5回、外務大臣に就任し、激動の時代の外交を支えました。

彼は、生涯に一度も外国に行くことはなかったのですが、明治元年、弱冠30歳にして、欧米各国の公使団代表である英国公使パークスと堂々と渡り合ったことから、国内外から、その外交交渉が高く評価されたことをきっかけとして中央の官界・政界に活躍の場を与えられましたし、晩年に至るまで、この早稲田の地にあった大隈邸には世界各国からの訪問者が絶えなかったといわれています。

翻って現内閣を見ると、早稲田大学卒業生が5つの主要閣僚ポストを占めています。外交分野に注目すると、外務大臣を務めている岸田文雄氏も、本年6月に外務事務次官に就任した杉山晋輔氏も、本学の出身であります。大隈重信と同じく、困難な国際情勢の中で、わが国の外交の先頭に立ち、尽力されているお二人は、本学の建学の理念の一つである「模範国民の造就」、すなわち、世のため人のために貢献するという利他的精神をもって広く世界で活躍する“よき地球市民の養成”という理念を体現しておられ、大変誇らしく思っています。

国際社会における難局に敢然と立ち向かい、建学の理念を体現した本学卒業生に想いをいたすとき、駐リトアニア領事代理として、人道的な観点から、本国の指令に反して命のビザを発給し続け、ナチス・ドイツの迫害から逃れようとする6千名ものユダヤ系難民の命を救った杉原千畝や、在イギリス日本大使館参事官として、イラク戦争終結後の復興支援において中心的な役割を果たしながらも、2003年に凶弾にたおれ、45歳の生涯を閉じた奥克彦のことが思い浮かびます。自らの信ずるところに従って最善の方策を提示し、それを実現するために身を挺して行動した彼らは、今も世界的な賞賛を受け続けています。

本日、この卒業式をもって早稲田の杜を巣立つ皆さんも、こうした諸先輩方と同様に、自らの信ずるところに従って、進取の精神をもって、世界の至る所で、また、さ

まざまな分野で、大いに活躍してほしいと願っています。

幸い、皆さんは、早稲田大学の自由独立の校風の中で幅広く学び、あるいは深く研究に励んだことで、様々な困難に立ち向かえる知識と知恵を培いました。そして、多くの異なる価値観を持った仲間たちと切磋琢磨し、また、海外での体験やボランティア活動、サークル活動など多くの自主的な活動を通じ、早稲田らしい進取の気性を身につけ、強固な人的ネットワークも築いてこられたものと思います。

早稲田大学の「自由独立」の校風について、大隈重信は、1920年の始業式訓示で、次のように述べています。

「わが早稲田大学は、創立以来、自由独立で一貫してきているから、其の学生は他の学生とは大いに違ふと思ふ。自由独立と云ふのは人の良心を捉え来つた問題である。即ち人間が本能的にそなえた所の所謂抜くべからざる良心を根底とするのである。」と。

いついかなる時代にあっても、一人ひとりが自由で豊かな個性を発揮し、どんな局面においても自分の頭で考え、自らの信念に基づいて行動する。これは人間が人間らしく生き、幸福をつかむための普遍的な原理です。人が生来備えている「良心」に従って毅然として行動することのできる人格を涵養して社会に送り出すことが、本学における教育の真の目的であり、建学以来護り続けてきた根本理念なのです。

大隈重信は、自ら筆をとることがほとんどありませんでしたので、皆さまの中でも大隈の考えに触れたことのない方が大部分だろうと思いますが、日本中でおこなった素晴らしいスピーチの数々が残されています。早稲田大学の学生・卒業生にぜひ大隈の考えを理解し、受け継いでいただきたいと考え、本学は、今春に『大隈重信演説談話集』を編纂し、早稲田大学校友会は、新入会員歓迎の意味も込めて、これを本年度の学部卒業生全員に贈呈することにいたしました。ぜひとも座右の書として、大隈の、そして早稲田の精神を今後も身近に感じ続けてください。

皆さんの学生生活は本日をもって一区切りとなりますが、皆さんの「学び」は、今

日で終わるわけではありません。今日の社会は、新しい知識・情報・技能が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増している高度な知識基盤社会となっていますので、進学する方だけでなく、就職する方にとっても、生涯を通じて不断の学びを続けることが必要とされています。

これからも、日々、新しい課題に正面から向き合って、問題の本質を把握し、最新の情報に基づいて必要な調査・分析を綿密に行い、自分の頭で考え、さまざまな価値観をもった人たちとの議論を通じて、望ましい解決策を練り上げ、強い使命感をもってそれを実行して行ってください。

そして、必要のあるときは、いつでもまた本学の門をたたいて下さい。早稲田大学は、創立 150 周年を見据えた将来計画 “Waseda Vision 150” においても謳っているように、生涯いつでも必要なときに必要なことを学べる大学になることを目指しています。

皆さんが、本学での学問・研究を通じて得た知力・体力・人間力を基礎として、これからも不断の学びと精進を重ねることによって、洋々たる前途を切り拓くことを祈念するとともに、グローバルリーダーの一人として世界の平和と人類の幸福の実現のために大いに活躍してくださることを心より期待して、私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。

本日は、ご卒業、誠におめでとうございます。